

創業87年の伝統ある ベンチャー企業

株式会社トプコン

会社は生き物という。さまざまな苦難を乗り越え成長し、姿かたちや内面までも変えていく。これを実演してしまつたような企業がトプコンだ。創業は1932（昭和7）年。測量機などの光学機器の国産化を求める帝国陸軍省の要請を受け、服部時計店精工舎の測量機器部門を分社独立させたのが東京光学機械（現トプコン）である。創業の地、板橋で、双眼鏡や光学照準器などの軍需に対応、戦後はカメラ、顕微鏡、測量機器などで民需転換を果たしつつ、50年代にはカメラが売上の8割を超えるまでに成長するも、競争激化で80年にはカメラ事業からの撤退を余儀な

くされている。トプコンが当時群雄割拠した単なるカメラメーカーの1社なら、同社の歴史はここで閉ざされたかもしれない。

◎「医・食・住」の課題解決ビジネスへ

だが、ここからトプコンの新たな挑戦が始まる。創業時から手掛けてきた測量機、その後参入した眼科医用機器を中心に独創的な製品を多数創出する一方、70年には欧米に現地法人を設立し、世界各地に生産・開発・販売拠点を持つ現在のグローバル化に繋がる第一歩を踏み出した。なかでも65年に開発した眼底カメラは現在の主力事業の1つであるアイケアビジネスの基盤となり、更に今では眼科必須の診断機器となった3次元眼底像撮影装置（3D OCT）で世界をリード、市場シェアは3割におよぶ。また90年代から始まった海外を中心としたM&A。94年建機の制御技術、2000年の精密GNSS受信機、06年の精密農業技術など、相次ぐM&Aで高度先進技術を吸収し、現在の中核事業であるポジショニングビジネスを開花させた。



同社の原点となった測量機（トランシット）

● 社是・理念

【経営理念】

トプコンは「医・食・住」に関する社会的課題を解決し、豊かな社会づくりに貢献します。

【経営方針】

- ・トプコンは先端技術にこだわり、モノづくりを通じ、新たな価値を提供し続けます。
- ・トプコンは多様性を尊重し、グローバルカンパニーとして行動します。
- ・トプコンはコンプライアンスを最優先し、全てのステークホルダーから信頼される存在であり続けます。



代表取締役社長

平野 聡 氏

● 長寿の秘訣

戦前生まれの国策会社の変貌は、ストーリー性に満ちている。最大のターニングポイントは、現在のデジタルビジネスの基盤を築いた複数のM&A。市場狙いの資本戦略と異なり、将来を予見したベンチャー技術の獲得が中心だ。時代の変化を読み取り、数々の新技術を自社の事業ベクトルに取り込んだ大胆な決断と目利きが特筆される。M&Aで成長を導いた平野聡社長に次ぐ眼力の持ち主が期待される。



創業当初の社屋

● 会社概要

創 業：1932（昭和7）年9月
 所 在 地：東京都板橋区蓮沼町75-1
 事業内容：ポジショニング（GNSS、マシンコントロールシステム、精密農業）、スマートインフラ（測量機器、3次元計測）、アイケア（眼科用検査・診断・治療機器、眼科用ネットワークシステム、眼鏡店向け機器）等の製造・販売
 売 上 高：1,486億8,800万円（2019年3月期）
 資 本 金：166億8,000万円（2019年3月期）
 社 員 数：連結4,932名（2019年3月末現在）

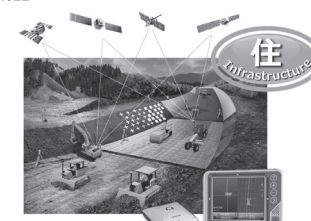
URL：<https://www.topcon.co.jp/>



眼科用の診断機器



農機の自動操舵システム



建機の自動制御システム

代表的なソリューション

いま同社の目指す方向は明確だ。「医・食・住に関する社会的課題を解決する」こと。医は世界的な高齢化による眼疾患の増加、農は世界的な人口増加による食糧不足、住は世界的なインフラ需要とそれに対応する技術者不足。平山貴昭執行役員広報・IR室長は「これら医・食・住の産業分野は他の産業に比べ非常に大きいにも関わらず、IT化、自動化が遅れている。そこに当社がフォーカスし解決策を導く意味がある」と説明する。すでに自社の精密測量技術と買収した油圧制御技術、GNSS技術を組み合わせ、ミリ単位の制御を可能とした土木施工の自動化や、農機の自動運転などの取り組みが、国内外で始まっている。生き物には寿命がある。しかし挑戦と変革を惜しまないトプコンは、令和の時代も駆け抜けるだろう。